

原発粉じん60キロ飛散か

宮城・丸森で観測 セシウム急上昇



東京電力福島第一原発から北西約六十キロの宮城県丸森町で二〇一一年十二月から二年間に、原発から飛来した粉じんなどが原因とみられる大気中の放射性セシウム濃度の急上昇が七回あったとの調査結果を、東京大気海洋研究所の中島映至教授らのチームがまとめ

た。

3号機原子炉建屋で大規模ながれき撤去作業が行われた時期に上昇したケースもあった。チームは「事故当初に比べれば濃度として低い」としており、大きな影響はないとの見方を示した。

チームは二一年十二月から一三年十二月までの間、丸森町役場に大気中の粉じんを集める装置を設置し、放射性物質の濃度を調べた。

この間に九回の濃度急上昇があったが、二回は風向

きなどから原発からの飛来ではないと判断。残る七回は二二年九月〜一三年八月に観測され、気象データの解析から原発から飛来した可能性が高いと結論づけた。最高値は通常時の百倍程度の一立方メートルあたり四・六ミリだった。

東電は「昨年八月は敷地内でも濃度上昇を検知しており、がれき撤去などの作業が影響した可能性は否定できない。他の時期は、敷地内では異常は確認されておらず、降雨などの影響ではないか」としている。